

地域防災の持続的向上可視化アプリケーションの技術開発



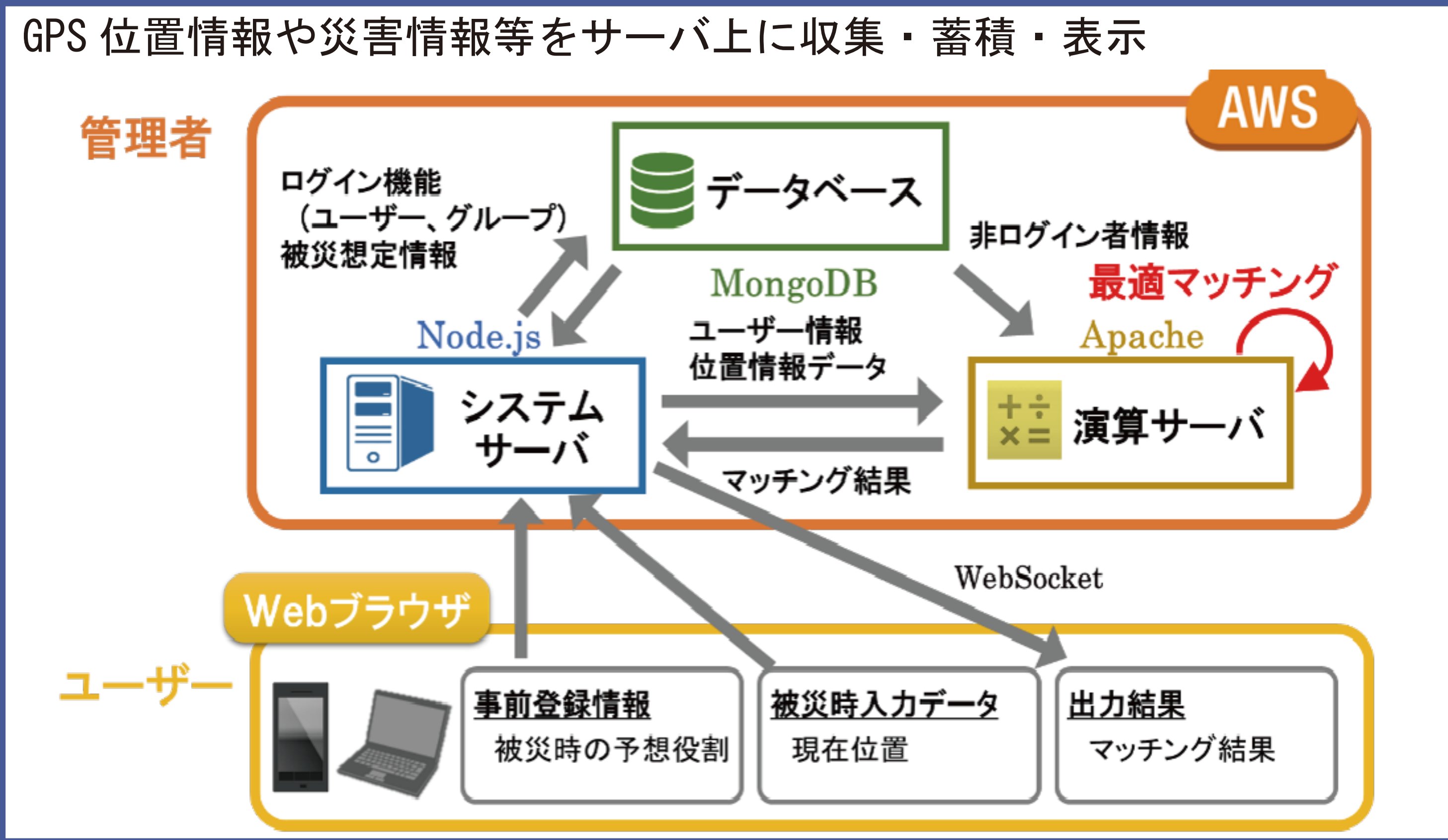
研究開発機関：東京工業大学・ベクトル総研
 (代表 東京工業大学 環境・社会理工学院建築学系 教授 大佛俊泰)



地震や水害時における要支援者と支援者を「地域防災支援アプリ(共助アプリ)」でマッチングさせることにより、**限られた時間・人員・物資を最大限に活用して、地域や都市型施設における被害の最小化を図る。**

技術開発

<基盤技術>



<実用化技術>

(1) AI マッチング機能
 時間と資源を最適化した人・モノ・タスクの対応付け

(2) マネージャー機能
 全体の進捗状況確認, 双方向のリアルタイム情報共有

(3) ナビゲーション機能 最適経路の表示と巡回支援

<汎用化技術>

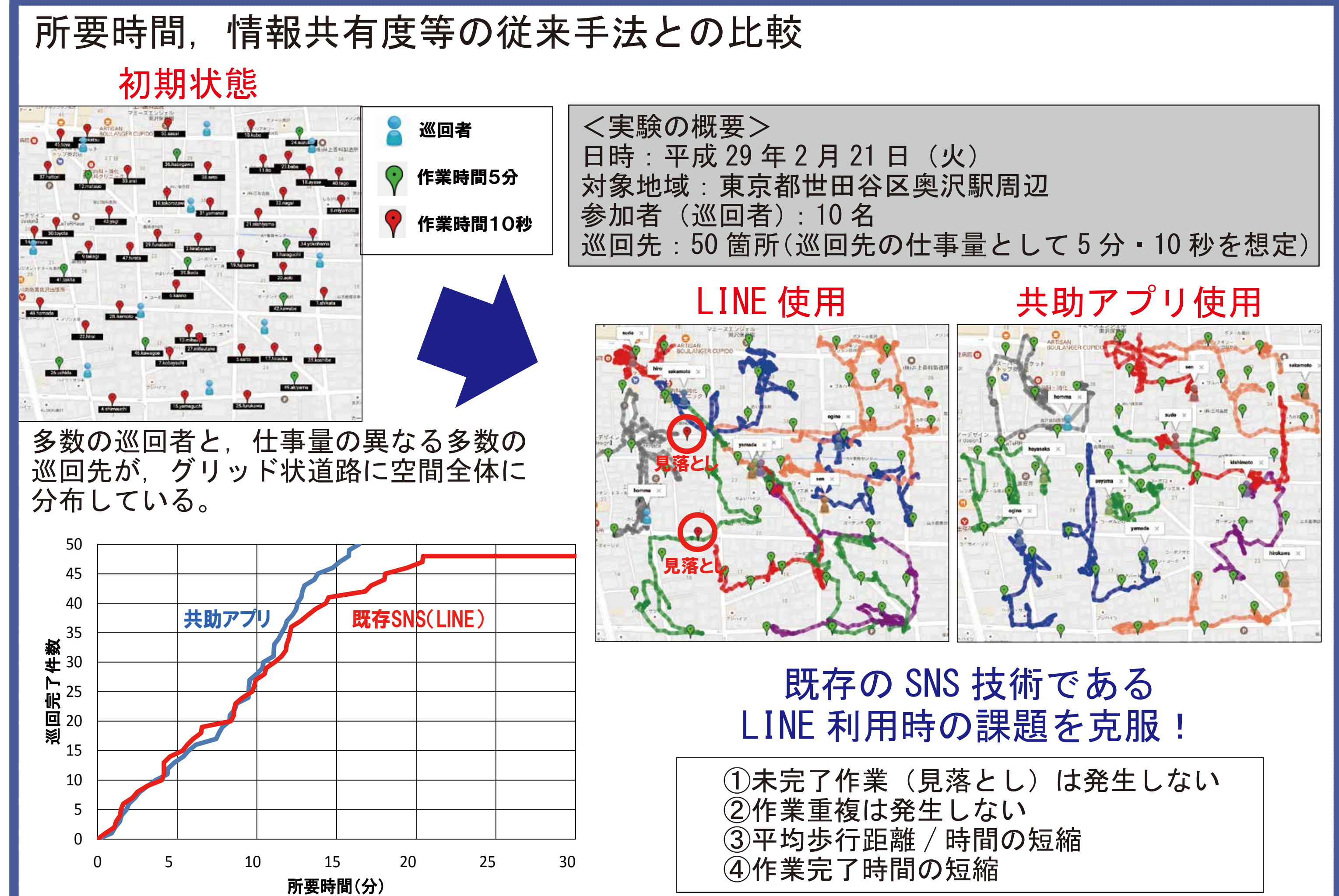
(1) グループ機能 地域や施設を連携

(2) AI 支援機能
 AI 技術を用いた訓練振り返り・計画最適化支援

(3) 屋内測位技術の導入

社会実装に向けたプレ実証実験

<フィールド実験による導入効果の定量評価>



<プレ実証実験を通じての水平展開の整理>

大規模地下街でのニーズ把握・実験の実施

<実験の概要>
 日時: 平成28年9月2日(金)
 内容: 川崎市における水害対策を想定
 想定担当者:
 A. 川崎市危機管理室担当者2名
 B. 市職員(3つの区役所へ登庁中)3名
 C. 市職員(多摩川巡視)3名(上・中・下流に各1名)
 D. アゼリア防災センター担当者1名
 E. アゼリア内巡視員3名
 F. その他施設管理者3名(3つの区役所の職員)

川崎アゼリア防災センター
 管理者 PC3
 タスク1, タスクX, タスクY
 早期災害情報収集 危機管理室 PC2
 情報収集・報告, タスク割当
 市内約900施設
 地下街への浸水状況を撮影・報告
 多摩川の上・中・下流の増水状況を撮影・報告

川崎アゼリア地下街の対応状況 多摩川巡視のモニタリング
 市全域の対応状況確認 川崎市危機管理室 下流域の状況確認

FAXや電話ではなしえない効果

プログラム終了時の成果見込

SIP基幹システム、府省システム等
 連携・共有化 地域防災支援アプリの開発 成果: 多様な災害シナリオやエリア特性に対応

機能の拡充
 ●屋内地図情報管理機能
 ●マッチング機能の高度化
 ●AI支援機能の追加
 ●履歴管理機能の追加

対象施設の拡充
 ●大型商業施設
 ●ターミナル駅
 ●ホテル
 ●病院、福祉施設

エリアマネージャー 指示 情報収集
 接続ビル 救護者 防災センター 救護者 自衛消防隊
 浸水 救護者 救護者 救護者 救護者
 本実証実験 効果検証 社会実装 出口戦略の策定
 成果: アプリ実装、効果測定 成果: 戦略アクションプラン、先導機関への導入